

災害対応ロボットの研究開発で最前線をゆく東北大学の田所研究室を訪ねました。

ここでは企業からの研究資金を活用し、いわゆる人間では対応が難しい分野をロボット技術によって老朽化した橋やトンネル、ガス・水道管、被災建物の点検、災害時の救助などに役立てようと開発が進められています。本来、橋やトンネルなど人間が近づけない高所建築物の点検は膨大なコストと時間を要し、機材を組み立て点検・補修をするのが一般的です。

しかし、この飛行ロボット(マルチコプタ)を活用すれば、高度経済成長時に急増した交通インフラ整備にかかるコストの削減が大いに期待できます。

災害用のロボットとしては、福島第一原子力発電所の放射線量を測定しているロボット(戦車のようにキャタピラがある)が建屋内の暗い階段を調査している様子をテレビで見た方も多いでしょう。このクローラロボットは線量測定の外に、カメラ録画・水位計測・汚染水の採取・3次元レーザーキャナによる地図の生成もできてしまう高性能が特徴です。

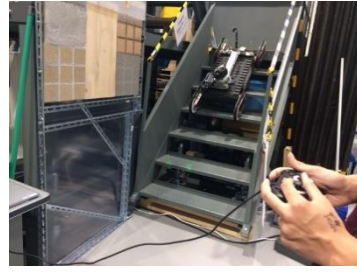
また、蛇のように狭隘な空間に入り込む能動スコープ、サイバー救助犬が装備する軽量スーツなど、生命を守る災害対応の在り方と新しい産業分野として雇用の創出や研究所・企業誘致などに繋がりたいと感じます。



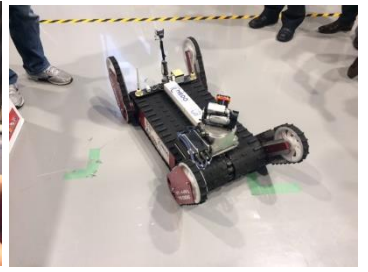
電動マルチコプタ



サイバー救助犬の行動計測スーツ



レスキューロボットQuince(クインス)



## 日本一の水管橋(1,101m)から日本一のコスモス畑を見よう!

今回、初めて荒川水管橋の見学会を開催します

10月22(土)・23(日)吹上コスモスフェスティバルに合わせて、普段は入ることのできない荒川水管橋を渡る見学会を初開催します。

### \* 2Kmコース

(10時~15時までの毎時00分 1日6回 小学校4年生以上)

### \* 400mコース

(10時~15:30分の毎時00分と30分 1日12回

小学生以上(1~3年生は保護者同伴)

\* 定員 一日あたり180人(各コース10人)

詳細は県HP、広報かがやきにも掲載されています。 埼玉県企業局048-830-7064



17号宮地交差点から川里に向かう途中の信号機に安養寺(中)の表示版を設置しました。

以前はフラワー通りと新幹線の間の信号と表現していましたが、一気に説明し易くなりました。